

参議院議員の三宅しんごです。

新型コロナウイルス感染症の「不確実性」に世界が揺れた1年でした。似た言葉に「リスク」があります。何が違うのでしょうか。

袋Aには赤色と黒色の玉がそれぞれ5個入っています。一方、袋Bにも玉が10個入っていますが、赤玉と黒玉の数は分かりません。100円支払って、袋Aから玉を1個取り出し、赤なら300円もらえるゲームなら、やりたい人がいるはずですが、袋Bならどうでしょう？

袋Aのように確率が分かっている状態を「リスク」とするなら、袋Bのように赤玉がゼロ個かもしれない、確率が読めない状態が「不確実性」です。

感染がどこまで拡大するのかが分からないコロナ禍はまさに不確実性の典型。欧米で感染予防のためのワクチン接種がスタートしました。国内でも近く始まることを見込まれます。ワクチン接種による予防効果により、一刻も早く「不確実性」が消えることを強く期待します。

さて、先の臨時国会では参議院・外交防衛委員会の筆頭理事として、日英包括的経済連携協定を国会承認することができました。英国はEU（欧州連合）から離脱しており、日英の間で個別の協定がないと両国の貿易に多大な悪影響が出ます。厳しい国会日程でしたので、慎重な委員会運営に徹しました。無事に承認でき、胸をなでおろしています。

税制改正論議では「経済危機の時代に増税なし」を最低ラインとして、自民党の政務調査会や税制調査会などでの議論に臨みました。自動車課税、サービス付き高齢者住宅、研究開発、企業の M&A 促進、鉄道、造船・フェリーの海事分野などで、経済環境にあった税制を熱く訴えました。予算編成では介護報酬や公共交通の支援拡充などの要望のため、所管の大臣室を駆け回りました。

また、私の発案で党内に「出入国管理業務の適正運用を支援する議員連盟」を旗揚げ。外国人との広範囲の共生が、我が国の経済発展や文化の深化には欠かせません。出入国在留管理庁が外国人との共生社会実現の要の一つです。議員連盟として、その体制強化を菅義偉総理や麻生太郎財務大臣に求め、入国審査官の大幅増員などを実現しました。

詳細：<http://www.miyakeshingo.net/activityreport/> (2020年11月)

党内で、まさに口角泡を飛ばす激論となった選択的夫婦別姓問題では、賛成派議員を糾合し早期導入を求めました。

一部の同僚議員には反対論も根強く、政府が25日閣議決定した方針では、「夫婦の氏に関する具体的な制度の在り方に関し」「更なる検討を進める」との記述にとどまりました。残念でなりません。

夫婦同姓を強制する国は我が国だけのようです。この問題を巡っては、最高裁大法廷で来年夏にも司法判断が出るが見込まれています。司法判断を待たず、導入への道筋をつけるのが政治の務めだと考えます。

詳細：<http://www.miyakeshingo.net/activityreport/>（2020年12月）

今年、地元香川は鳥インフルエンザにも襲われ、三豊市の現地対策本部にも足を運びました。昼夜を徹し、感染抑止の作業を担われている自治体職員はじめ、応援にかけつけた自衛官など関係者すべての皆さまのご尽力に心より敬意と感謝を表します。また、鶏卵、鳥肉業界への打撃も甚大で、一刻も早い完全収束と事業回復への支援策が必要です。

本年も多くの方々に支えられ、政治活動をすることができました。心より御礼申し上げます。さらに精進を重ね、新しい年には更にアクセルを踏み込む所存です。

自民党の新聞出版局長として手掛けた機関紙「自由民主」新春号は「コロナを乗り越え、凜としたニッポン」です。不確実性に染まった2020年。新しい年は希望の光が差し込むことを祈念致します。